

- ・対象地域：登別市、白老町
- ・当該市町村人口：69,630人（H25港勢調査）
- ・地域人口：1,611人（H25港勢調査）
- ・漁港：登別漁港(3)
- ・漁業協同組合員：93人（H25港勢調査）

登別・白老（虎杖浜）地域マリンビジョン計画

安全・安心 資源・衛生

自然・景観・温泉

～「環境」を基盤とした「観光」との熱い連携、
食・交流
そして深い「感動」を～

■拠点漁港のタイプ

- 衛生管理流通拠点漁港
- 都市漁村交流拠点漁港

≪平成27年3月改訂≫

拠点漁港

登別漁港（第3種）



スケトウダラ陸揚げ

地域の資源等



登別温泉・地獄谷



登別東インタール 迎鬼像



マリンパークニクス



虎杖浜たらこ



漁港まつり

【位置図】



現状と課題

- 現状**
- 登別温泉、虎杖浜温泉、JR登別駅（特急停車駅）、水族館、高速ICなどが、漁港に近く特徴ある立地条件（漁港から登別温泉まで車で10分、JR登別駅・マリンパークまで徒歩5分、虎杖浜温泉・登別東ICまで車で5分）
 - 「虎杖浜たらこ」等の加工品や「虎杖浜ゆたら丼」等のご当地メニュー

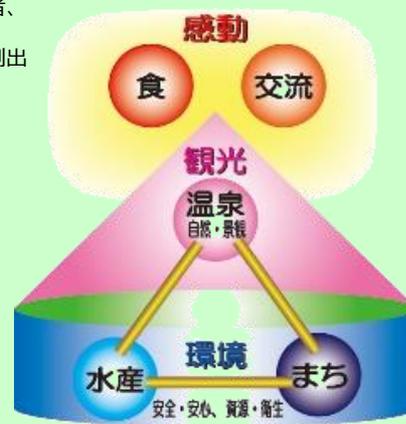
- 課題**
- 水産と観光との有機的連携・協働
 - 経営安定や担い手の確保
 - 品質・衛生管理の一貫性とPR
 - 漁港施設の機能向上
 - 天候に左右されない安定供給体制
 - まちづくり・防災等のニーズ対応

地域の目指す姿

■ビジョンの特徴（理念）

定評ある登別・虎杖浜ブランドの水産物を核に、徹底した品質・衛生管理の強化を図り、産地基盤を強固にする。また、強化した極上品質の水産物を武器に地産地消を推進して地場の水産応援団の拡大を図ると共に、水産関係者、観光関係者、商業者、まちづくり団体、地域住民等が様々な連携を強化し、水産物の供給体制を確立し、食と交流の感動を同時に創出することで観光産業との相乗効果の発現を目指す。

- ①観光連携の鍵となる生産流通機能の高度化とPR推進によるブランド力の強化
 - ・地域一体での衛生管理とPRによるブランド力強化
 - ・外来船対応機能の強化による経済効果の獲得
- ②地産地消推進による地場の水産応援団の拡大、観光との相乗効果の発現
 - ・直販等による域内消費・水産応援団の拡大
 - ・観光への安定供給確立による相乗効果の発現
- ③「まちづくり」の一環としての漁港づくり
 - ・漁業体験等による総合学習の推進
 - ・プレジャーボートとの共存
 - ・防災・減災拠点としての漁港施設の活用
 - ・「まちづくり」との連携



地域マリンビジョン協議会

■事務局（登別市観光経済部）

《メンバー》

- ・漁協関係者
- ・加工流通関係者
- ・観光関係者（登別、白老）
- ・漁港利用者（PB等）
- ・地域代表
- ・オブザーバー
- ・行政（登別市、白老町）

※協議会下に以下の部会を設置

- ・作業部会（テーマ毎に招集）
- ・衛生管理推進部会
- ・地産地消推進部会
- ・（仮称）観光推進部会 等

《フォローアップ委員会》

- ・年1回程度開催

地域資源（特徴）

- スケトウダラ、サケ、ホッキ貝、イカ、カニ、エビ等、四季を通した豊富な水産資源
- タラコ等の優れた水産加工技術を有する直売所が連なる海産物ロード

【主な地域資源等】

- 登別温泉・虎杖浜温泉、地獄谷、テーマパーク（マリンパークニクス・伊達時代村、クマ牧場等）、ポロトコタン等の豊富な観光施設
- 特急停車のJR駅、高速IC等交通拠点
- 漁港まつり、直売所…等

漁港の将来像

①衛生管理流通拠点漁港

- ・高度衛生管理型荷捌場、屋根付き岸壁等

②都市漁村交流拠点漁港

- ・防災対応施設、教育の場、PBとの共存、
- ・地域と連携した観光機能の導入（体験乗船、景観のPR等）

ビジョン実現のための主な取組み

- 海水氷使用のPR、製氷貯氷施設・活魚施設の整備・活用
- 女性の視点による陸上作業環境の改善や漁港利用者への周知徹底
- SNS等を利用した水産に関する情報発信（空蘭地域MV等と連携）
- 福利厚生施設整備や地域と連携したサービス導入等いか釣り外来船誘致
- 朝市・夕市、漁港まつり、海鮮直市等の継続実施とレシピ配付
- 観光推進部会の設立、観光客向けの水産品提供、漁港への観光機能導入
- 避難訓練の実施、避難マニュアルの策定、事業継続計画の策定